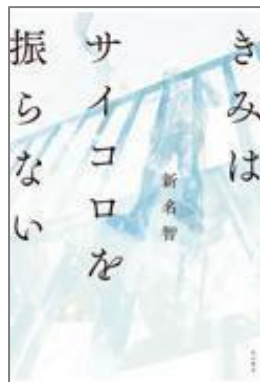


# 職員オススメ本 9月



「きみはサイコロを振らない」  
新名 智／著 KADOKAWA

高校生の晴は、ある日同級生の莉久から「遊ぶと死ぬ」というゲームの存在を教えられる。莉久の知り合いである大学院生の葉月に頼まれ、3人は葉月の元カレが遺したというゲームの山を元に、その呪われたゲームを探ることになった。しかし、中学時代の友人の死を引きずる晴は、しだいに黒い影に追われるようになり……。過去に悲しい思いを抱く学生3人による青春オカルトホラー小説です。



「黄金比の縁」 石田 夏穂／著 集英社

小野が、不祥事の責任を取らされ花形の部署から人事部新卒採用チームへ移動になったのは十年前。一次面接は採用担当が担当することから、会社へのある復讐を密かに行っていた。復讐とは、会社をすぐに辞めるような応募者を採用し、長い目で見て会社の体力を奪うこと。すぐに辞める応募者を見極めるのに基準にしたのが顔の「黄金比」だった。順調に仕事をこなしていた小野だったが、「黄金比」によって会社のある秘密に気づいてしまう……。



「メメント・モリ」  
ヨシタケ シンスケ／著 KADOKAWA

ラテン語の『メメント・モリ』（死を想え・いつか必ず死ぬことを忘れるな）をテーマに、どこかの姉弟メメント・モリの日常から「人は何のために生きているのか」「生きるとはどういうことか」という問答が繰り返されていく。時に難解な二人の問答は、考えさせられるものから共感できるものまで様々だが、三つあるそれぞれのストーリーのラストにも注目です。